

東熊会会員による「里帰り講話」概要

日時 平成29年11月10日(金) 14:00~15:00
場所 菊池市立旭志中学校
対象 同校生徒、教職員等
講師 東京熊本県人会理事長 堤 清 氏
参加者 120人(生徒97人、教職員等23人)
テーマ 大人社会で求められること



【講話概要】

- 本当にお金で買えないものは友だちである。友だちは一生の宝である。
- 社会に出て挨拶はとても大切なものである。大きな声であいさつをすると、自分も元気になるし、他の人も元気にする。「行ってきます」「ただいま」「いただきます」「ありがとう」など普段、何げなく使っている言葉を大切にすること。
- できる限り、プラスの言葉を使う。プラスの言葉を使うことで、つらいことが半減する。何事も自分のこれからの経験になるととらえると、全てのことがこれからの人生に役立つていく。
- 直筆でお礼状を書くことを大切にしてきた。これまでお世話になった人には、すぐにお礼状を送るように心掛けた。
- 「一期一会」という言葉を大切にしてほしい。人と人との出会いは奇跡である。「縁」を大切にしてほしい。
- 東京に住んでいると、熊本の自然、風景の素晴らしさを改めて感じる。この風景は当たり前のものではない。旭志の宝、菊池の宝、熊本の宝である。これからこの自然を大事にしてほしい。
- これからの人生において「自分を磨くこと」「自己修養」が大切である。常に学ぶ気持ちを忘れずに、勉強に励んでほしい。
- 社会において礼儀やマナーは基本である。中学校時代にきちんと礼儀を学んでほしい。
- 人生は一回きりである。悔いを残さずに、いろいろなことに挑戦してほしい。
- 家族、クラスの級友、先生、友だちは当たり前前の存在ではない。自分は周りから支えられており、周りにいてくれる人に感謝の気持ちを持ってほしい。
- 出会う人の良いところをみつけてほしい。明るく、優しい心で接してもらいたい。

【生徒の感想】

- 今回の講話を聞いて、「一期一会」という言葉が心に残りました。これまでや今、そしてこれからの縁を大切にしていきたいと思いました。また、挨拶は今まで元気な声でできていなかったけど、これからは少しでも大きな声で挨拶していきたいと思いました。

- 今回の講演を通して、旭志、菊池、熊本の素晴らしさを改めて認識することができました。菊池の良さをもう一度見つめて、自信を持ち、誇りにしていきたいと思いました。旭志の自然豊かな風景は当たり前のことではなく、本当に恵まれていることであることがよくわかりました。

- 私はよく都会と田舎を比べて、田舎は何もないところだと思っていましたが、堤さんの話を聞いて、この菊池はのびのびと暮らせて、近所の人と親しく触れ合うことができると思いました。大人になった時に、堤さんのように故郷に戻ってきて、山や川などの自然の風景を見て、自分の心を落ち着ける場所があることの素晴らしさを感じました。今回の話を聞いて旭志に誇りを持つことができました。

- 私はこの講演の中で、堤さんがおっしゃった「やりたいことは思い切ってやる。」という言葉が一番心に残りました。なぜかというと、私はまだ自分がやりたいことが見つかっていないし、全てに対してあきらめている自分がいました。しかし、未来のことはわからないので、何にでも挑戦していきたいと思いました。

- 僕たちは今、進路選択という時期であり、悩んでいることも多いが、今日の講演会を聞いて、これからの人生や仕事をしていくうえで大切なことを学ぶことができました。また、挨拶はとも大切なことであるので、これから徹底していきたいと思いました。